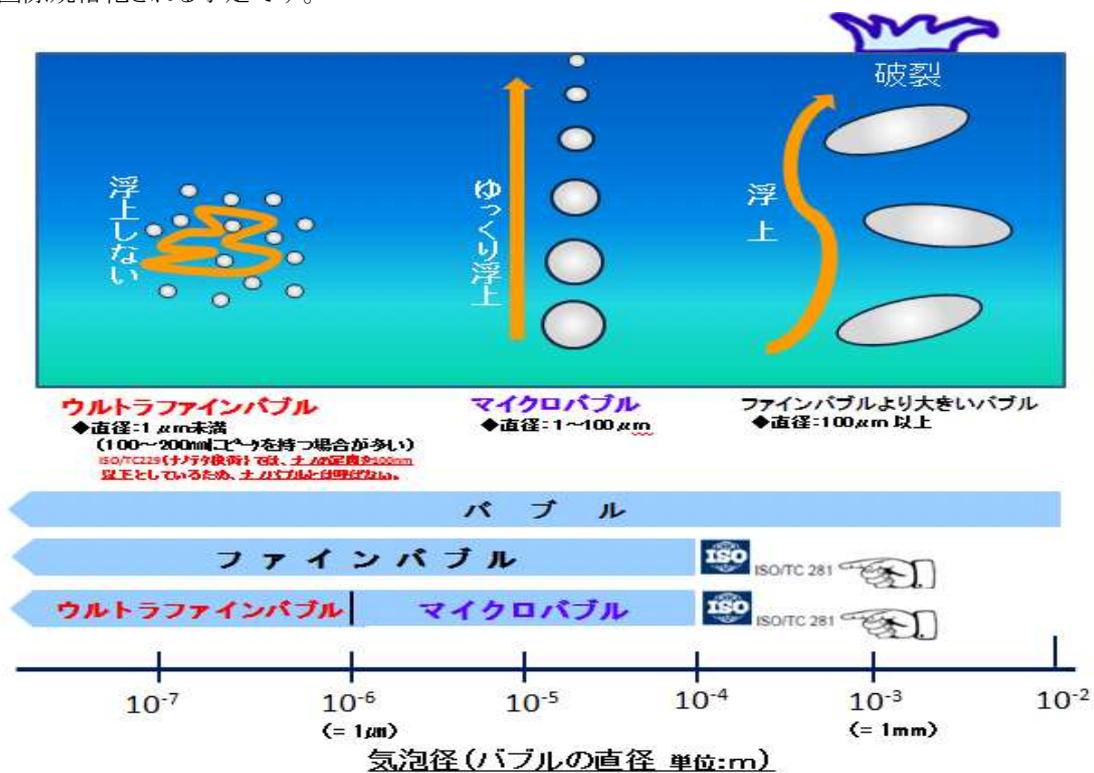


「“ナノバブル” と呼ばない理由」

ファインバブル関連技術は日本発の革新的技術で、最近グローバルベースで注目されております。一般社団法人ファインバブル産業会 (FBIA) 及び会員では、ナノサイズの微細気泡は「ウルトラファインバブル」と呼称しています。この呼称はISO/TC281で決められ^{注1)}、今後は「ナノバブル」と呼ばないこととしています。

報道関係の皆様からの「取材・執筆」依頼の際には、この呼称での統一に同意いただいております。

注1) 日本提案で経済産業省の支援を受け ISO 国際標準化「ISO/TC281(ファインバブル技術)」を推進し、「ファインバブル」をサイズの定義のもと「ウルトラファインバブル」と「マイクロバブル」と呼称することが国際規格化される予定です。



“ナノバブル” と呼ばない三つの理由

1) ISO国際標準化の動き

ISO/TC229(ナノテク技術)で「ナノスケール」とは「100nm 以下」と定義されており、新しく「ISO/TC281(ファインバブル技術)」で扱うウルトラファインバブル(1000nm 以下)はその定義に入らない。

2) “ナノ”のグローバルでの認識

欧州では「ナノ」は「リスク(解らないもの、怖いもの等)」を想起させる。一部地域とはいえ、あえて安全性に不安をもたらす命名は、将来発展性の高いバブルの呼称として適さない。

3) 国内での“ナノバブル”イメージ

過去 10 年間、計測に基づかない“ナノバブル”を冠にした多数の製品が発売され、その効果・効能について一部では疑義を持たざるを得ないものもあり、「ナノバブル」に対する後ろ向きのイメージが形成されている。サイエンスに基づいて ISO で国際標準化された「ウルトラファインバブル」として「ナノバブル」とは一線を画し、健全で信頼できるグローバル産業化を推進します。